



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	資料
Author(s)	深瀬, 清
Citation	季刊農業経営研究, 2, 48-48
Issue Date	1956-07-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36240
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_48.pdf



業改良事業の一環として実施することを強調された方は昭和 25 年当時、私共の直属上司であった畜産改良係長嵯峨隆氏であり、これを採用して実施せしめたのは当時の農業改良課長鈴木吉蔵氏である。その後課長は伊集院兼敏氏、奥山孝氏を経て石井城夫氏に及び係長は昨年 7 月岸田益雄氏に転じたが、現在に至るまで、責に任ずるこれらの方々が一貫して経済検定こそ本道酪農を背負う重要事業であることを理解され、異常の熱意を以て推進されて来たことは本道酪

農の幸せであつたと考えられ特に記しておきたいのである。

更に経済検定事業運営委員会を組織して不断に御援助を賜っている北海道酪農協会常任理事沢潤一氏を始めとする委員の方々に深甚なる謝意を表すると共に、この事業草創時から昨夏まで共に学び励んで先達としての責を果された農業改良課川端武史氏の功を忘れてはならないものである。

【資料Ⅱ】

乳牛経済検定牛成績に関する考察 (第 3 報)

北海道農務部農業改良課 (30年2月)

乳牛飼養農家の経営改善、飼養技術の向上をねらった乳牛経済検定は、発足以来 4 カ年にして漸く検定終了 1100 牛頭に到着した。

本資料は新たに検定を終了した 540 頭について分析検討した結果と第 102 報所載の考察に於いて尽し得なかつたところを更に調査研究した数篇を取りまとめて集録したものである。

昭和 29 年度 酪農経営調査報告書 (第 1 報)

北海道農務部農業改良課 (30年2月)

28 年より 29 年前半に及ぶ短期間ではあつたが、異常な乳価の騰貴が農家経済を著しく潤したのも束の間、デフレ経済の余波は数次に亘る乳価切下げを余儀なくした。しかも、経済界は更に引続く乳価切下げの意志を抱く風聞がある。そこでこれが対策を確立し、農業経済の安定化をはかるため、乳牛飼育農家の実態調査を行った。取敢えず昭和 29 年の牛乳生産の実態がこれに取纏められた。

十勝地方における 農地交換分合

北海道農地開拓部 北海道交換分合推進協議会 (30年2月)

この調査は交換分合第一次計画期間中 (昭和 25—27) に実施した事業について実施経過、計画内容を検討する目的で調査したものである。この調査地区の選定は新得町を酪農経営化の課題とし、芽室町は十勝の大豆作経営を代表する地区として取りあげた。

Ⅰ 上川郡新得町上佐幌地区

Ⅱ 河西郡芽室町中伏古地区
(筆者 田島重雄 西村正一)

北海道における 農地の交換分合

北海道農地開拓部 北海道交換分合推進協議会 農業委員会北海道連合会 (30年3月)

この調査は第 1 次交換分合 3 カ年計画 (昭和 25—同 27 年) 事業がどのように進められ、事業が農家に与えた影響がどのようなものであつたかについて実態を明かにし、将来の事業実施上の参考に供するためになされたものである。

〔Ⅰ〕 岩内郡前田村リヤムナイ地区

〔Ⅱ〕 空知郡富良野町富丘地区

〔Ⅲ〕 常呂郡端野村川向地区

(筆者 田辺良則 千葉燎郎
塩沢照俊)

北海道総合開発計画調査

根釧原野開発計画調査中間報告

北海道開発局局長官房開発調査課 (30年3月)

根釧原野の開発について昭和 2 年より本格的調査と開発構想の樹立に着手した。本調査は原野の農業経営が気象や土地条件に恵まれないのに拘わらず、今尚確立されていない現状にあるので、その原因を究明すると共に、この原野に最も必要とされる酪農経営の確立方途を見出さんとするにある。(筆者大隈技官 湯川技官他)

昭和 29 年北海道冷災害 対策現地調査報告書

積雪寒冷単作地帯
審議会振興対策

農林大臣官房総合開発課 (30年3月)

昭和 29 年冷害は北海道においては冷害に加うるに風害等によつて前年に倍加する被害を蒙り、全道的に農家経済の危機に直面するに至つた。

政府の救農土木事業は、時期も積雪寒冷の時期に事業を始めることになつたが、これが適正なる実施を推進すると共に、事業の実態を究明し今後の施策に資するため調査されたものである。(筆者 秋葉満寿次他)